

担当学芸員が語る 暁斎展の見どころ

～学芸員：河内えり子さんに聞く～

—河鍋暁斎という人はどんな人ですか？

河内 幕末・明治時代の人で、今話題の「龍馬伝」の坂本龍馬と同じ時代を生きただけの人です。もしかしたら、知らないうちに会っていたかもしれませんね。とにかく絵を描くことに人生の全てを捧げ、あらゆる感情を絵に描いて表現できた人です。

—どのような画歴の人ですか？

河内 暁斎は、浮世絵と狩野派の両方の絵を学びました。実際、浮世絵師に学んだのは2年程、その後は狩野派を学んだそうです。しかし、技術は狩野派でありながら、その批判精神は浮世絵の師、歌川国芳の影響を受けている、といわれています。

—「画鬼」と呼ばれていたのはなぜですか？

河内 少年時代、目にしたものには何でも食らいつき、徹底して描かずにはいられなかった暁斎をみて、絵の師匠であった狩野派絵師、前村洞和が名付けたといわれています。

—伊豆と深い関係があるようですか？

河内 そうです。母親が沼津に住み、兄の甲斐直次郎が韮山の代官所に勤めており、当地を時々訪れていたようです。修善寺にも、暁斎は病氣治療のために来ています。

—なぜ、こんなおどろおどろしくて、おもしろい絵を描いたのでしょうか。

河内 一つには、単純に興味があったからでしょう。ガイコツや妖怪をたくさん描いています。また、時代が明治に移り新政府に対し、風刺のきいた絵で世の中を“チクリと刺す”意味で描いていたようです。

—作品をどのように鑑賞したらいいのでしょうか？

河内 単純に見ただけでも面白いものがたくさんあります。しかし、じっくり見ると、その裏に社会風刺やすぐれた筆の技が見えてきます。

「仕掛けの絵師」と言われる、河鍋暁斎の描く作品の面白さを一つ例に挙げてみますと、展示作品に「極楽太夫図」という美人画があります。一見、宝尽くしの打掛を着た美人画ですが、良く見ると、帯の柄は「賽の河原」です。極楽の中に地獄が隠れているのです。河鍋暁斎の作品は、何度見ても美味しい奥深さがあります。



「極楽太夫図」

新規入会者 (敬称略、50音順) 平成21年9/1～平成22年8/31まで

《特別会員》UMIウェルネス株式会社、株式会社ルーム・アシスト、中島勲

《ゴールド会員》赤堀ひろ子、小野啓一、後藤邦彦、松本栄一、塩澤万喜子、藤井文子、高尾享司、西原宏夫、野中英紀、遠藤やえ子

《正会員》相原ひな子、伊丹弥生、井出久、岩崎光代、碓井宏政、及川志伸、大橋弘、小野八重、柿崎忠彦、柿崎宏子、黒澤雄太、榊原千恵子、坂本直子、佐藤啓子、島田園郎、白井恵子、鈴木菊三郎、鈴木紀代子、高木富美、高橋蓉子、多田義孝、平田恭子、富永昌弘、藤田清子、松岡勇夫、松本香代子、水口祐三子、皆川泰之、港晃子、峰田俊子、村上圓竜、森崎祐治、髭数久、細谷政秀、渡部功、渡邊佳代子

佐野美術館賛助会ミュージッククラブ会報『ミュージック交歓』 2010年10月号(第6号)

発行日:2010年10月1日 編集・発行:佐野美術館賛助会ミュージッククラブ

住所:〒411-0838静岡県三島市中田町1-43 佐野美術館内 TEL:055-975-7278/FAX:055-973-1790

ホームページ:http://www.sanobi.or.jp メール:mc@sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会
ミュージッククラブ会報

ミュージック交歓

NUMBER

6

2010.10

佐野美術館と皆さまをつなぐ

ミュージック交歓が 新しくなりました

ミュージッククラブ運営委員長
亀山千鶴男



『ミュージック交歓』は、ミュージッククラブの会報として年2回発行し、会員の皆さまにお届けしておりますが、発刊以来4年目を迎えました。本年度から、佐野美術館の広報誌『隆泉』が大幅に改訂されたのを機に、『ミュージック交歓』も内容を充実し皆さまに親しまれる会報にするため、装いを新たにしてお届けする運びとなりました。

新しい『ミュージック交歓』は、とりあえず今回のような形になりましたが、皆さまの声をさらに反映したものにする必要があります。そのため、皆さまのご意見、ご感想を是非お寄せくださいようお願い致します。

さて、佐野美術館の運営および諸活動の賛助団体として設立されましたミュージッククラブは、会員の皆様のご理解とご支援をいただき、その目的を果たしながら今日に至っております。

来年は、佐野美術館が創立45周年という記

念すべき年を迎えます。ミュージッククラブとしても、クラブ独自の諸事業をさらに充実して、会員相互の交流活動を活性化するとともに、会員の増強を進めて美術館の支援強化を図っていきたく思います。今後とも、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「交歓」の名にふさわしい内容に

ミュージッククラブ広報委員長
小野 徹



『ミュージック交歓』は平成19年に発刊されて以来、ミュージッククラブ会員の皆さまへ様々な情報を提供してまいりましたが、今回、思い切ってバージョンアップを図ることになりました。

ご覧の通り、サイズもA4判4ページ建てで、活字も大きくなりました。内容も会員の皆さまへのイベントのお知らせや、参加者の生の声、それに美術館のスタッフの方々の展示会にかける意気込み、会員からの寄稿などを掲載して、『ミュージック交歓』の名にふさわしい真の会員の交歓・交流のための会報を目指すことにしました。

お気付きの点がございましたら、遠慮なくご指摘くださいますようお願い申し上げます。

ご意見・
ご感想を
お寄せ
ください!

ミュージッククラブの活動をより楽しく有意義なものにするために、皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。展示会やミュージッククラブ事業、運営に関するリクエスト、アドバイス、ご要望など、ミュージッククラブ発展にむけたあらゆる声をお聞かせください。お電話、FAX、e-mail などにて承ります。

ミュージズクラブの活動から

歌舞伎鑑賞バスツアー に参加して

6月14日(月)、ミュージズクラブは国立劇場で歌舞伎「鳴神」を鑑賞、さらに目黒雅叙園の百段階段を見学しました。参加者にその日の感想を綴っていただきました。

～会員のみなさまの声～

・雅叙園の美術品、百段階段もみごとでした。武田双雲の書も胸打たれました。ゆっくり時間をとっていただき、歌舞伎鑑賞も毎年の楽しみです。また、来年も楽しみにしております。ありがとうございました。

(裾野市 平野靖子さん)

・はじめて参加しましたがとても楽しかったです。値段的にも大変お安くすみしました。

(三島市 平田恭子さん)

・目黒雅叙園の百段階段は想像以上の美しさに感激しました。昼食も大変おいしくいただきました。世話人の皆様へ感謝申し上げます。

(裾野市 西島高男)

・素晴らしいミュージズクラブツアーです。目黒雅叙園は結婚式のパーティーに行くことは数回ありましたが、このツアーにより改めて歴史を感じました。職人技とその時代背景、そして食事、すべて感動いたしました。つけ加え、本日のバスガイドさんの知識がすごいことにおどろき!!

(沼津市 榎原千恵子さん)

・せわしない毎日からぬけ出せて、ノンビリと楽しいツアーでした。歌舞伎の解説付きも笑いました。何よりビックリはガイドさんの知識の豊富さです。地図を見るように絵をみるように、飽きさせずに感激でした。また、ノンビリツアーをお願いいたします。

(清水町 白井恵子さん)

★ミュージズクラブ国立劇場・歌舞伎鑑賞バスツアーは、平成18年から始まり、今年で5年目です。これまでに鑑賞した演目は次の通りです。

- ・彦山権現誓助剣 (平成18年)
- ・双蝶々曲輪日記 — 引窓 — (平成19年)
- ・義経千本桜 河連法眼の段 (平成20年)
- ・華果西遊記 (平成21年)
- ・鳴神 (平成22年)



国立劇場前での全体写真



好評だった目黒雅叙園内レストランの食事



歌舞伎演目「鳴神」鑑賞

旅行の際に、今後のご希望をお聞きました。

<今後のリクエスト>

美術館見学 -----

- ・永青文庫・根津美術館・国立西洋美術館
- ・東京都庭園美術館・サントリー美術館
- ・三の丸美術館・東京国立博物館
- ・江戸東京博物館

施設見学 -----

- ・帝国ホテル・古い時代を感じる横浜
- ・根津本郷めぐり

観劇など -----

- ・文楽・能・落語

ミュージズクラブ秋のメインイベント 「十三夜の宴」のご案内

サクソ奏者 中村健佐さんの 演奏を鑑賞します!

毎年ご好評をいただいております月と音楽を楽しむコンサート「十三夜の宴」。今年はサクソ奏者の中村健佐さんを迎え、登録有形文化財・隆泉苑の庭園で甘美でゴージャスなサクソの音色をお楽しみいただきます。

奏者の中村さんは27歳より独学でサクソをはじめ、エンジニアとしての仕事のかたわら演奏活動を行ってきました。2002年、40歳の時それまで勤めていた本田技術研究所を退職、「ストリートミュージシャンを生業とするサクソ奏者」に転身しました。路上での心にしみる優しい音色に魅了され、CDの売上はストリートライブでは異例の5万枚。ストリートを自らの音楽活動の基盤とする、音楽業界で異色の存在です。

演奏終了後は、バイキング形式での温かいお料理をご用意しております。秋の夜長のひと時を、ぜひ佐野美術館でお過ごしください。

日時	平成22年10月20日(水)
	午後5:00 開場
	午後5:30 開宴
会場	佐野美術館隆泉苑
定員	約100名(先着順)
参加費	MC会員 3,000円
	ビジター 4,000円
出演者	サクソ奏者 中村 健佐
	※要申込、お電話・FAXにて承ります



muse

招待席



ミュージズクラブで得たもの

佐野美術館友の会会長
宮内完吾

私は83回のお飾りを潜りました。中学時代は戦争の始まりから、終戦のその時まで学生時代でした。この間に現在では味わえない、環境の変化、教育の変化、食料の変化、生活の変化、等多大の変化に、考えが及ばず唯、その流れに流されるしか、自分の道はありませんでした。現代の裕福な環境の中におかれて、初めて美意識が芽生えました。それがミュージズクラブでした。

墨の濃淡にて、運筆の変化で絵が描ける。展示された美術品、頼朝の世界一の肖像画、陶芸の最高傑作の天目茶碗、世界に誇る武器である日本刀の美、平面に線描きし、色彩豊かな日本画、多種にわたる美の極致の作品に触れたことは、今までになかった美の文化

に接し、大きな変化を心に覚えました。そして考えました。心とは、自分自身の五感で感じた全てが自分の心として蓄えられ、又は感性として、物の観察力に知恵を与える。見る見方が定まる。多様な社会の変化を自分の五感で感じることが、自己の貴意を高める最大のものである。

ミュージズクラブで勝ち得た知識、体験、親睦は年輪を重ねることに大変に役立ちました。

芦の湖カントリークラブでは爽やかなゴルフコースでプレイができました。お茶会も優雅な心の癒しに役立ちました。墨絵の研鑽によって、宮本武蔵の強さがわかりました。それは武蔵の絵を模写した時に感じました。

鉄の結晶と、輝きの磨きに心をひかれ、日本刀を会得したいと考えました。日本刀を使って剣の真髄を得るべく、居合道の道に進みました。来年三月に居合道四段を取得するべく鍛えております。